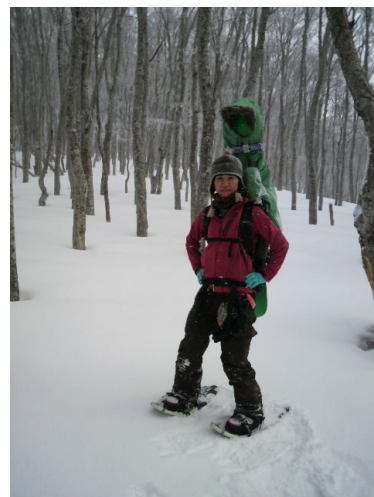


体験談レポート

ユーザー: YY(30代・女性) 青森県
商品名: ニュウモラップ EX ジャケット
テスト日時: 2010年3月7日
アクティビティ: バックカントリースキー&スノーボード
(岩木山 岳~鳥海山~百沢 ※鳥海山山頂 1502m)
テスト環境: 曇り時々雪 (山麓-1℃~山頂-10℃前後)
当日のレイヤリング: (アウター)ハードシェル、
(ミッドシェル)ニュウモラップ EX ジャケット
(インナー)インナーシャツ、アンダーシャツ



~高低差のある山行に欠かせないアイテム~

岩木山は八甲田山に次いでよく行く山。前日までの暖気と雨で雪は固くなっていた。登りは楽だが滑走自体に不安が…。それでも時々太陽が顔をだし、新雪も2~5㍍、北西の風も厳しくない。晩冬の岩木山としては絶好のコンディション。

自分はいつも登り始めてすぐ暑くなってアウターを脱いでしまう。いちいち重いザックを下ろして脱いで…の作業も煩わしいので、今回は最初からアウターは荷物にくっつけて、ニュウモラップ EX ジャケット&インナーのみで朝9時にスタートした。



同行者2名はスキーシールでサクサク登っていく。私はスノーシューだが背中にスノーボードと重量がある為ついていくのがやっと。しかし同行者が着衣調整でザックを下ろしているすきに、その必要がない私が今度は先行したりなど、お互いにいいペースで林間を登っていった。

雪のちらつく中、ニュウモラップ EX ジャケットにも、きれいな雪印の雪の結晶が積もったが、軽い雪はすぐ払えるので気にならない。フリースなどの生地のもとの違い、

中間着でありながらアウターとしても使える。7合目まではこの格好のままでも寒さは気にならず、8合目アタックの段階でようやくアウターを着用。こんどはニュウモラップ EX ジャケットはミッドシェルに早変わり。

8合目のリフト小屋横にツェルトを張って早めの昼食をとり、霧が晴れるのを待機。さすがに8合目まで来ると風の影響でツェルト内にも寒いすきま風が入り込むが、体温を奪われることなく1時間ほど休憩。

ツェルトの外を見ると、岩木山の山頂も鳥海山も霧の中で見え隠れしている。まだまだ雲の動きが激しいが、こんどはボードブーツにアイゼンを装着し、岩木山の副峰・鳥海山へのアタックを開始。リフト横の急斜面の登りで、薄いパウダー下は凍った雪のため、スノーシューよりもアイゼンのほうがガンガン行くことができる。登っていくにつれ気温も下がっていくが、顔はパラクラバとゴーグル、体は背中のザックとアウ

ター&ミッドのニュウモラップ EX ジャケット&インナーで守られているので寒さを感じることなく、1時間ほどで9合目へ到着。

そこから鳥海山の滑り出しまでさらに進むと、霧が晴れて視界がゴールの百沢スキー場までパッと見渡せた。アイゼンを仕舞いスノーボードを装着し、お楽しみの滑降開始！まずは鳥海山からの最大斜度30度の斜面！しかし、パウダー&アイスバーンのミックスで気が抜けない！ふわふわ~カリゴリ！！の連続がどこまでも続く…。林間も登山道沿いも雪は固いまま、スキー場にゴールした頃ようやくザラメの雪になった。足はもうパンパンで筋肉痛緩和のために、帰りはもちろん麓の温泉に寄って山行終了となった。

今回の自分の滑走には合格点をあげられなかったが(笑)、ニュウモラップ EX ジャケットはこのような高低差のある山行に欠かせないアイテムだ。秋・冬とずっと使ってきたが、春からのバックカントリーでもアウターとしての利用頻度が増えそうだ。

